

平成30年度 石見銀山基金事業

石見銀山学習概要報告集

班別

- 【1班】 第一中学校・大田小学校・長久小学校・川合小学校・久屋小学校
- 【2班】 第二中学校・五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校・久手小学校・朝波小学校
- 【3班】 第三中学校・大森小学校・高山小学校
- 【4班】 北三瓶中学校・志学中学校・志学小学校・北三瓶小学校・池田小学校
- 【5班】 大田西中学校・仁摩小学校・温泉津小学校

大 田 市 校 長 会
石 見 銀 山 課
NPO石見銀山協働会議

1 班

校校校校校
学学学学学
中小小小小
一田久合屋
第大長川久

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3年生・147名

2. 実施時期 平成30年6月～10月

3. 学習のねらい

- ① 石見銀山について、世界遺産としての価値や魅力をより深く知る。
- ② 石見銀山について、自分の言葉で語ることができるようにする。
- ③ 石見銀山学習を通して、ふるさとへの誇りと愛着を育てる。

4. 学習内容

〈事前学習〉

- ① 石見銀山資料館館長、仲野義文さんの講話（石見銀山と海外とのつながり、銀の行方や交易による品々等の話）を聞く。
- ② 「石見銀山ことはじめ」等の資料を使い、石見銀山の歴史や銀山学習の目的について学習する。
- ③ 現地学習で回るコースについての調べ学習をし、新聞の下書きを作成する。

〈現地学習〉

- ガイドの方の話を聞き、大森の町を歩いて新しい情報を見聞きし記録する。

〈事後学習〉

- ① 現地学習で得られた新たな情報を、事前学習でまとめた内容に付け加え、グループで新聞を作成する。
- ② 文化祭で展示し、多くの人に新聞を見てもらう。



大森の町並みを回りながら、ガイドの会の方の説明をメモを取りながら聞く生徒たち。

5. 生徒の感想

・館長さんのお話や銀で作られたものを見て、日本の中でも特に石見銀山が、外国の人々の関心を集めていたことが分かりました。銀の価値が高かったことが世界をこれほど動かしていたことを思うと、大田市に住む私も誇らしく思います。

・石見銀山を歩いて、ガイドさんのお話を聞きながらいろいろな場所を見て回ると、昔の風景を想像することができました。

・銀や銅の鉱物は、命を短くしたりするなど悪いところがあるので、大変な思いをして人々は働いていたんだと思いました。11 歳から採鉱していたと聞き、私も昔なら仕事をしていたんだなと思いました。

・今は草しか生えてない所でも昔はたくさんの戦いがあり、銀を求めて石見銀山に外国からもたくさんの人が来ていたことを思うと、寂しくもあり、また誇らしくも感じました。

・フィールドワークをしてみると、資料などで調べたときよりも、実物を見たり聞いたりして、大きな迫力がありました。また、ガイドさんのお話や、普段は入れないような所へも入ることができ、本当によい体験をすることができました。

・ガイドの方のお話を聞きながら銀山の山の中を歩いていると、にぎやかだった頃の情景を思い浮かべることができました。銀を掘って運び、選別してシュートと言われる場所で下に落としていた辺りを見ると、その行程が想像できて、興味深かったです。

・大森の町並みを歩くと、住んでいる人が町並みを大切にし、町並みを守っていることがよくわかりました。人々が助け合っている様子を見たり、武家屋敷の修復にお金をかけていることから、町並みを大切にしていると思いました。

・毛利氏が石見銀山を支配していたのは知っていましたが、その子孫が明治になってから西南戦争でこの地に来て豊栄神社を見つけるなんて、歴史のロマンを感じました。その当時から残っている石灯籠を見ることができるのも現地学習の醍醐味だと思いました。

・代官所を調べて、どんな場所でどんなことをしていたかよく分かり、立体的な昔の暮らしが生々しくよみがえってくるようでした。今度は一人でゆっくり歩いてみたいです。

・私は大森の町並みを歩いて、ガイドの会の方に武家、商家のことだけでなく、さまざまなことを教えていただきました。これからも石見銀山についてもっと知っていき、自分一人で説明できるほどの力をつけたいです。

6. 成果と課題

義務教育の最終学年である中学3年生で「石見銀山学習」を行うことは、大いに意味があると考えられる。この時期は自分の進路や生き方を考え決定する時期であり、生徒にとっては改めてふるさとを見つめ直す時期になる。ガイドの方とのふれあいを通して、人と人との関わり方を学び、世界遺産を保全している人々や町並みの景観に努める町民の気持ちを思いながら学習することは、キャリア教育という視点からも大切であると考えられる。

学習内容で言えば、歴史や地理の学習を一通り終え、既存の知識の中で改めて石見銀山の価値に気づかせることができる。石見銀山については、小学校で学習した内容をさらに発展させるためには、新たな視点や課題の提案が必要であるが、ふるさとに誇りを持ち、それを語り伝える意欲と力をつける上では、大変意義深い学習になった。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年・人数 6年生 101名
- 2 実施時期 平成30年9月～平成31年1月
(※現地学習11月16日)
- 3 学習のねらい
 - 「石見銀山」を見たり触れたりすること、または、関わる魅力ある「ひと」と触れ合うことで、自分のすむまちに対しての知識を増やし誇りをもつ。
 - 探究の過程を大事にした学習における問題解決的な活動を繰り返すことで、一人一人が主体的に、答えのない課題に対する自分なりの考えをもつ学び方を身につける。
 - 自ら課題をもち、これまでに培った学び方が生きて働くような学習を一人で、もしくは仲間と共にやり遂げよう(＝協同的な学習)と努力する。
 - 感じ取ったことを表現したり伝え合ったりする活動を通して、言語により分析したりまとめたりする。
- 4 学習内容
 - (1) 石見銀山との出会い直し
 - ・ 石見銀山について知っていることを出し合って、イメージマップを作成する。
 - ・ 「調べたいテーマ」から「調べたい疑問」を作成する。
 - (2) 石見銀山を調べよう！
 - ・ 書籍やインターネットを使って自分で決めたテーマについて調べ学習をする。
 - ・ 石見銀山資料館仲野義文館長、石見銀山ガイドの会安立聖会長、三瓶自然館中村唯史学芸員から石見銀山の歴史や価値、地質学について話を聞く。
 - ・ お話を聞かせてもらったことを整理・分析し、石見銀山についての興味や関心をさらに高め、現地学習の準備をする。
 - ・ 5つのグループに分かれて現地学習を実施する。(石見銀山ガイドの会)
 - (3) 石見銀山の未来を考え、発信しよう！
 - ・ 調べてわかったこと、見たこと、考えたことなどをまとめる。
 - ・ 石見銀山資料館 仲野義文館長から「石見銀山のこれから」について話を聞き、新たな視点(銀山の未来)を獲得し学びを深める。
 - ・ 3～5年生にまとめたことを発表することを知り、相手意識をもって発信する。

5 実際の学習の様子

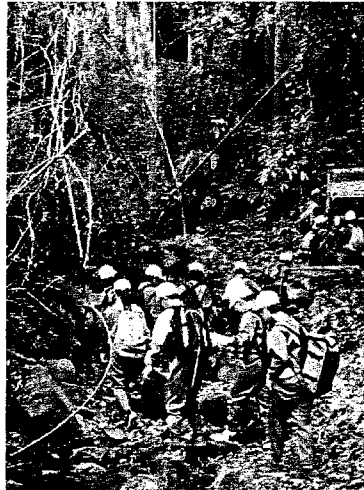


【石見銀山ガイドの会 安立聖先生の講話「世界遺産石見銀山」】

世界遺産とはどのようなものなのかということや、石見銀山遺跡の概要についての話を聞いた。さまざまな写真や資料を見たり、質疑応答を行ったりして、今後の石見銀山学習についての関心や意欲を高めることができた。

【現地学習】5つのコースに分かれて、石見銀山ガイドの会の方々に案内をしてもらう。

- ①大久保間歩、釜屋間歩、世界遺産センター（見学）
- ②町並み見学（河島家、熊谷家等）、銀山資料館、世界遺産センター（見学）
- ③世界遺産センター（見学、灰吹き、ゆり盆体験）、大久保間歩、釜屋間歩
- ④世界遺産センター（見学、灰吹き、ゆり盆体験）、釜屋間歩、大久保間歩
- ⑤降路坂、西田、中村の題目塔、松山の道標、沖泊



【調べたことを発信しよう！】



石見銀山を守るために できること

- ・竹や雑草などの処理をしたりするボランティアに参加する
- ・石見銀山のことをたくさん知っていろいろな人に伝えていく



6 学習の成果と課題

- 子ども一人一人が調べたいテーマを決定し、資料を活用した調べ学習や現地学習での見学や体験等を通して追究することができた。調べることで、新しい発見や驚きがあったり、新たな疑問が浮かんたりして、子どもたちは意欲的に世界遺産である石見銀山遺跡の理解を深め、愛着が深まった。
- 昨年度まで講師としてお願いしていた仲野先生、安立先生に加え、サヒメルの中村先生に講師をお願いした。「どうして仙ノ山で銀が採れたのか」を疑問として挙げていた子にとっては科学的に問題を解決できる機会を得ることができた。また、他の金銀山との比較をしながらお話をしていただいたことで、すべての子どもたちにとってもより多面的・多角的な見方で学習を深めることにつながった。
- 学習のまとめでは、調べてきたことをまとめただけでなく、仲野先生に再び講師を依頼し、石見銀山の未来について考えてみるといった視点を与えていただいたおかげで、銀山について学ぶだけでなく、銀山からふるさとの未来を自分で考えることができた。
- 銀山学習を通して、探求的な見方・考え方を働かせて考えるといった学び方ができたことにより、各教科で学んだことが総合的な学習の時間の中でより深まりを見せたり、各教科の有用性を感じることができたりすることにつながった。
- △ 子ども一人一人に、自分が取り組みたい問題を見いださせること、その問題を解決する過程を考えさせることを大事にすることが主体的な学びにつながると思うが、要望書の提出時期に、そこまでの学習を間に合わせることが難しく、現地学習が本当に子どもの主体性を大事にした学習過程となりにくかった。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 6年生 20名

2. 実施時期 平成30年9月～11月

3. 学習のねらい

- 郷土の貴重な文化・歴史遺産、その背景となった歴史や地域・文化・技術について学習することを通して、世界遺産である石見銀山遺跡に誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- 石見銀山について学んだり、体験したりしたことをまとめ、発表することができる。

4. 学習の内容

主な学習内容
【事前学習】 ○石見銀山について知る。 ・ 銀山資料館館長仲野さんの話。 ・ DVDやパンフレット、資料などから、石見銀山の歴史や価値について知る。 ○石見銀山遺跡について調べてみたい課題を見つける。
【現地学習①】 ○石見銀山について調べる。 ・ 大久保間歩、釜屋間歩を見学する。 ・ 石見銀山資料館や大森の町並みを見学し、銀山資料館仲野さんより話を聞く。
【現地学習②】 ・ 世界遺産センターで、展示物を見学したり説明を聞いたりして、課題を解決する。 ・ ゆり盆体験、灰吹き実験、丁銀づくり体験を行う。
【事後学習】 ○世界遺産・石見銀山遺跡についてまとめる。 ・ これまでの学習の成果をまとめ、発表する。

5. 学習の様子

【石見銀山学習とは・・・】

9月20日（木） 講師：銀山資料館 館長 仲野義文さん

世界遺産とは何か。石見銀山の価値とは何か。銀山の歴史的変遷や人々の暮らしなど、分かりやすく説明をして頂き、今後の銀山学習についての関心・意欲を高めることができた。



【現地学習の流れ】

10月2日（火） 大久保間歩見学・釜屋間歩・大森町並み見学

10月9日（火） 世界遺産センターの館内見学・体験活動

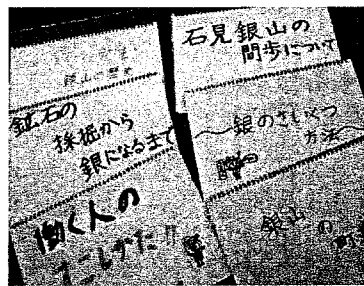


（児童の感想）

- ・実際に目で見て、触れて、当時の人達がどのように採掘作業を行っていたのかが分かりました。また、職人や奉行所、寺や神社、様々な人や物が関わっていたことを学ぶことができて良かったです。

【銀山学習をまとめよう、発信しよう】

11月5日 銀山プレゼンテーション



6. 成果と課題

- ・銀山資料館の仲野さんのお話を通して、銀山遺跡についての初めて知る内容や社会科の歴史学習との関わりを感じ、高い意欲をもって追求活動に臨むことができた。
- ・現地学習については、知識が伴わない状態での間歩見学となった。世界遺産センターや資料館での調べ学習を積み重ねた後に間歩へ行くことで、より当時の人々の苦労や努力が掴めたのではないだろうか。
- ・テーマ別に調べた内容をプレゼンテーションすることで、多面的・多角的に石見銀山の価値を再認識することができ、ふるさとの宝として大切にしていこうという気持ちと、郷土に対する愛着を深めることができた。

平成30年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立川合小学校

○実施学年、人数 第6学年 人数15人

○実施時期 平成30年10月18日

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・見学調査活動を通して、石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる。

○学習内容

学習テーマ 知ろう！ 探ろう！ 石見銀山

- ① 3人の武将（信長・秀吉・家康）と石見銀山との関わりを学ぶ。
- ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。
- ③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する。
- ④ 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。
- ⑤ 現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。

○実際の学習の様子

【事前学習】

- ① 3人の武将と石見銀山との関わりを学ぶ。
- ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。

・社会科の時間に3人の武将と銀山の関わりを学んだ後、NHKで放送された「そのとき歴史は動いた～銀を制するものは天下を制する～」を視聴した。その後、新聞記事やホームページ、世界遺産センターから出ているパンフレットを活用して石見銀山の概要を小項目に分けて学習し、まとめていった。

【現地学習】

③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する

・銀を採掘するために、いろいろな体勢で仕事をしてきたこと、間歩で働く人の平均寿命が30歳くらいであったこと、地下何階もあったことなどを学んだ。暗く、足下も頭の上も心許ない感触を抱きながら、採掘に携わった人々の労苦を児童なりに感じ取ることができた。また、釜屋間歩の岩盤遺跡は当時の人々の生活が分かるものであり、遺産センターでの模型とつなぎ合わせて理解することができた。



④世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。



館内見学では、自分たちが今まで学習してきたことを頭に置きながら説明を聞き、見学することができた。展示物で銀山全体の広さや、歴史的価値を再度確認することができた。

選鉱体験では、水と銀の混ざった土が入ったたらいの中に選鉱用の容器を入れて、用心深く銀を選ぶ姿、おおざっぱに流す姿などさまざまであったが、小さな銀を発見しては歓声をあげていた。土の中から銀を取り出す作業の大変さを実感することができた。

【事後学習】

⑤現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。



・現地学習後、世界遺産センターから出されているDVDを視聴し、自分がこれまで学習してきたこと、現地見学で学んだことを再度整理して報告書作りに取りかかった。

・間歩の中や遺産センターの模型等、何枚か写真を用意しておき、写真を切り貼りしながら現地見学の報告書を作った。見学で分かったことだけでなく、事前学習の内容をきちんと盛り込んで報告書を作ることができた。

（児童が作った報告書）

・事後学習で作った報告書と事前学習で作っていた銀山の概要を個々がまとめたプリントを一冊のパンフレットにし、銀山学習を終えた。

○学習の成果と課題

○成果

- ①石見銀山のすばらしさを知り、大田市への愛着と誇りをもつことができた。
- ②調査活動や体験活動を通して、歴史学習に興味をもち、学力の向上を図ることができた。

○課題

・児童が興味、関心を持って学習に取り組み、石見銀山の歴史的価値に思いをはせ、ふると大田をさらに大切にしようとするような学習過程を考えていきたい。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年11名（指導者1名）

2. 実施時期 平成30年 9月～12月

3. 学習のねらい

- ・ 石見銀山の歴史や現存している遺跡に興味をもち、意欲的に調べることができる。
- ・ 遺跡（間歩など）や世界遺産センターの見学等を通し、銀生産が盛んだった頃の石見銀山の生活の様子や石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めることができる。
- ・ 自分の課題解決に必要な資料や情報をさがし、分かりやすくまとめることができる。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	石見銀山について知ろう ・ 副読本・DVD・図書館の本・パンフレット等から、石見銀山遺跡の歴史や価値について知る。 ・ 資料館館長さんや資料館学芸員藤原さんのお話を聞き、自分たちの住んでいる町と石見銀山繁栄との関わりがあったことや歴史上の人物にとっての重要拠点であったことを知る。 ・ 現地学習での課題を見つける。
現地学習	・ 大久保間歩・釜屋間歩の見学を行い、当時掘られていた様子を知る。 ・ 石見銀山世界遺産センターでゆり盆体験をしたり、灰吹きの見学をしたりして、銀の取り出し方を知る。さらに、見学や質疑を通して課題を解決する。 ・ 久利町大屋町の寺や神社、鉱山跡の見学を通して、石見銀山とのつながりの考察や比較をしながら課題を解決する。
事後	・ 学んだことをもとに台本を作り、学習発表会で地域に発信する。 ・ 資料および見学や体験学習で学んだこと、さらに自分自身で調べたことなどをまとめ、発表する。

5. 実際の学習の様子

①石見銀山資料館館長さんのお話を聞く。

現地学習の前に、資料館館長さんより、「世界遺産とはどういうものか」「石見銀山の歴史」「石見銀山と世界の国々」「石見銀山と久利町・大屋町」についてお話を聞き、基礎的な知識を得ることができ、課題をもった。

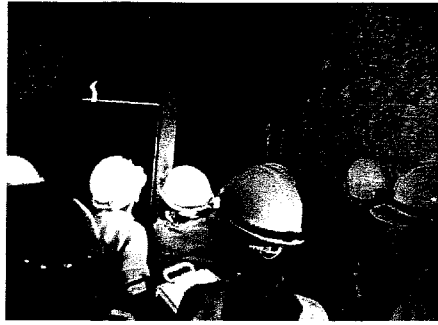


②大久保間歩・釜屋間歩・世界遺産センターの見学

現地で直接話を聞くことで、当時掘られていた様子や携わっていた人々の苦勞・工夫などを実感した。また、今まで資料を通して捉えていた石見銀山の価値を、詳しい説明を聞きながら展示物を見ることで、銀山全体の広さや歴史的価値を再確認し整理して理解することができた。



ガイドの方の説明を聞く



大久保間歩の見学



ゆり盆体験

③久利町・大屋町の見学

久利町・大屋町の寺や神社と石見銀山のつながり、鬼岩鉱山と石見銀山との比較について、資料館学芸員の藤原さんに説明をしてもらった。歴史的な背景を知り、地元が石見銀山とのつながりがあることに気づき、地元に対する認識を新たにすることができた。



大屋町・順勝寺跡の見学



大屋町・鬼村鉱山跡の見学



久利町・山辺八代姫命神社の見学

④銀山学習のまとめと発表会

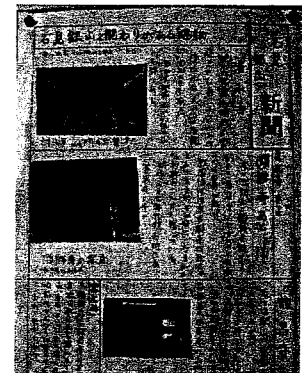
発表会で石見銀山学習の成果を発表するとともに、地域へ発信することができた。また、学級で、石見銀山学習の成果を新聞にまとめ、お互いに発表し合い、学習を深めた。



石見銀山と世界とのつながり



石見銀山と久利町大屋町との
つながり



石見銀山の成果を新聞
にまとめた

6. 学習の成果と課題

- ・石見銀山と久利町・大屋町との関わりを調べることで、支え合って生活していたことを知り、郷土に対する愛着を深めることができた。
- ・なぜ世界遺産として価値があるのか、自分なりに考え、これからどう関わっていくか考えることができた。
- ・石見銀山学習を通して、総合的な学習の時間における探求的な学習を展開することができた。

2 班

第 五 静 鳥 久 朝	二 十 間 井 手 波	中 猛 小 小 小 小	学 小 学 学 学 学	校 校 校 校 校 校
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立第二中学校

1. 実施学年・人数 1年生 77名

2. 実施期間 7月～12月

3. 学習のねらい

○石見銀山の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育てる。

○地域の人々との交流を深めながら、世界遺産に登録されてからの変化について調べ、これからの石見銀山のあり方について考えようとする態度を育てる。

○世界遺産である石見銀山の魅力を再発見し、伝えようとする態度を育てる。

4. 学習内容

1年生の総合的な学習の時間で実施した。

学習課題を「石見銀山の魅力が伝わる観光プランを提案しよう!」とし、探究的な学習となるよう計画した。

【事前学習】

・大田市役所石見銀山課・観光振興課、大田市観光協会、石見銀山ガイドの会、島根おおだ健康ビューロー等、石見銀山に関わる方から、それぞれが考える石見銀山の魅力とそれを伝えるために日々取り組んでおられることを伺った。

・グループに分かれてそれぞれテーマを設定し、観光プランを立案した。その際、調べ学習や関係者の方々のアドバイスを頂きながら石見銀山への理解を深めることができた。

【現地学習】

・事前学習で設定した5つのテーマと、それに基づく観光プランにそって班ごとに現地研修を行った。

<銀の採掘・精錬と鉱山での暮らし>

龍源寺間歩などの坑道や、吹屋跡などを見学し、銀の採掘・精錬の様子と鉱山で働く人々の生活を学ぶことができた。

<銀山支配の歴史>

山吹城を中心に戦国から江戸時代にかけての銀山争奪の様子や銀山支配の歴史を学ぶことができた。

<町並み>

近世の大森の町並みがどのようなものだったか調査した。一般的な町との違いを調べたりすることとおして、町の特色や街並みができた背景について知ることができた。

<ヘルスツーリズム>

大森町内での健康ウォークを中心に石見銀山でのヘルスツーリズムの魅力を体験した。

<観光業>

大森町内の飲食店や土産物屋など、観光地・石見銀山で事業をしておられる方の思いや事業所の魅力を探ることができた。

<啓発・保全>

世界遺産・石見銀山の良さや価値をどのように伝えているか、また石見銀山をどのように保全し、次世代に残していこうとしているか、啓発と保全に携わる人々の思いについて知ることができた。

【事後学習】

- ・現地研修で感じたことや新たに知ったことをふまえて、観光プランを再検討した。また、観光ガイドブックの形式でまとめ、発表会でプレゼンテーションをした。

5. 学習の様子



現地研修①銀の採掘・精錬と鉱山での暮らし



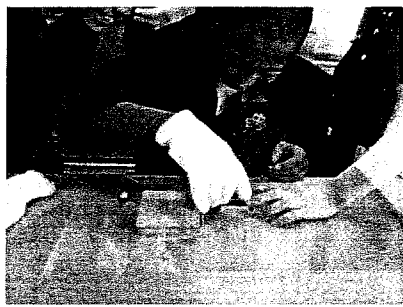
②銀山支配の歴史



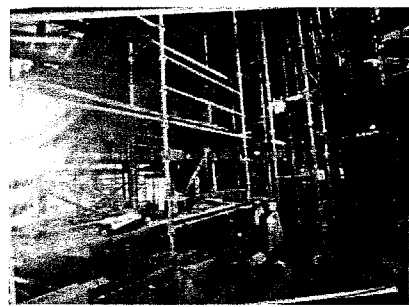
③町並み



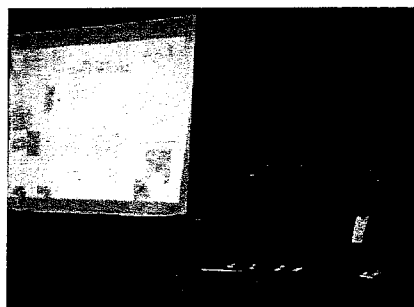
④ヘルスツーリズム



⑤観光業



⑥啓発・保全



学年発表会①ガイドブックとプランのプレゼン



②クイズ形式での発表



③石見銀山ガイドの会の方の講評

6. 学習の成果と課題（○成果 △課題）

- 学習課題を「石見銀山の魅力が伝わる観光プランの提案」としたことで、小学校での石見銀山学習の取組も生かしながら、石見銀山の魅力について主体的に調査し、考える機会となった。
- 資料からの情報だけで知識を深めるのではなく、現地に行って実際に見聞きし、体験することによって、石見銀山の世界遺産としての価値や魅力を理解することができた。
- 地域の人々との交流の機会もふまえながら、これからの石見銀山のあり方について考えたり、石見銀山の魅力を発信したりすることをおして、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育めた。

△事前、事後学習をより計画的に行うことで、生徒の学習意欲をより高めたり、学びの質を高めたりすることができたように思う。

△発表のスキルを指導し、学年発表会の質を高めていくことが「発信力」の育成の点からも必要であった。

平成 30 年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数 第 5.6 学年 15 名

○実施時期 平成 30 年 7 月～11 月

○学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学をしたり、石見銀山遺跡の資料を用いる学習をしたりして石見銀山遺跡の歴史やその価値を理解し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり体験を通して学んだりしたことをまとめ、地域へ発信する。

○学習内容

過程	主な学習活動
事前	○「発見・発信 石見銀山の魅力」 ・ 3 人の武将と石見銀山の関係について知る。 ・ 教師から石見銀山について話を聞いたり、パンフレットや DVD を見たりして、石見銀山の歴史や石見銀山の価値について知る。 ・ 石見銀山学習の課題（調べたいこと、より詳しく知りたいこと）を見つける。
現地学習	10 月 4 日 「石見銀山世界遺産センターで調べよう」 ・ 石見銀山世界遺産センターを見学したり、石見銀山ガイドの方の話を聞いたりして課題を解決する。 ・ 灰吹き法を見学し、当時の銀の製錬方法について理解する。 「仙ノ山を縦断しよう」 ・ 大久保間歩見学、石銀地区めぐり、銀山柵内の場所の確認などより広い視野で石見銀山遺跡を理解する。
事後	・ 調べたり見学したりして分かったこと、関心をもったことなどを新聞にまとめ、地域の文化祭・学習発表会で展示する。 ・ 個人の課題は、それぞれが新聞にまとめ、発表する。

○実際の学習の様子

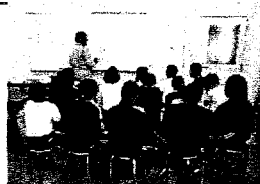
【灰吹き実験見学】

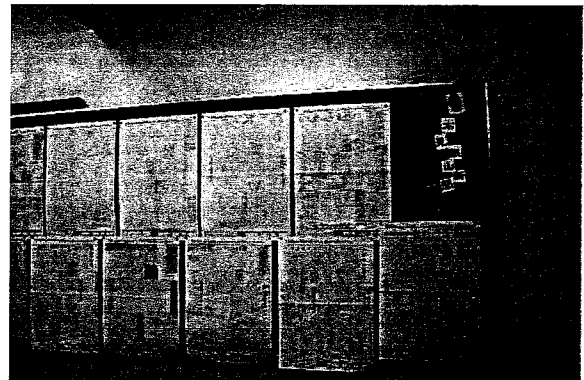
灰吹き法の仕組みを実際に見ることで、理解を深めることができた。



【世界遺産センターの見学】

世界遺産センターでは、ガイドの方から石見銀山の価値や特徴を教わり、世界遺産としての価値を再認識できた。また、写真や全体像模型から石見銀山の場所や大きさなど地理的な特徴について理解できた。事前に自分が調べたいことを考えて見学したことで、展示物や説明に興味を持って見学ができた。





大久保間歩、釜屋間歩、石銀地区などを見学した。実際にガイドの方に解説をしてもらいながら見学をしたことで、事後のまとめの学習では、より興味・関心をもって課題を追究する姿が見られた。

○児童の感想

- ・心に残ったのは間歩の見学で、暗い中、小さな器具でよくあんなに大きな穴を掘ったと思った。
- ・大久保間歩は人間があんなに奥まで手作業で掘っていたと知りとてもびっくりした。
- ・大久保間歩には当時のノミの跡が残っており、当時の人の苦勞が分かった。
- ・仙の山に登る途中で昔の人が暮らした跡が残っていてそれを見ることができよかった。
- ・大久保間歩では、コウモリを発見し、昔の人が使った貴重な木の柱も見ることができた。
- ・石見銀山で行われていた灰吹き法には、五十猛町の鉛が使われたことや五十猛にも当時、城があったことなどを知り、五十猛町がすごい所だと分かった。
- ・自分が調べたいことを資料で調べて、新聞にイラストを入れてまとめることができた。

○学習の成果と課題（成果◎ 課題▲）

- ◎石見銀山世界遺産センターや現地での見学により、石見銀山の歴史・価値についての理解や関心をより深めることができた。
- ◎世界遺産の石見銀山遺跡を知ることを通し、大田市への誇りと愛着を深めることができた。
- ◎調べたことを発表する活動を通して、追究する力やまとめる力、表現する力を高めることができた。
- ◎副読本やDVDを活用することで、より詳しく調べることができた。
- ▲指導者が石見銀山遺跡に関する知識を増やすために研修会に参加したり、知識や情報を児童に対してより分かりやすく教えていくために教材化したりすることが必要である。
- ▲自分の住んでいる地域と石見銀山の関連について地域講師を招いて学習を行ったり、情報収集をしたりすることが必要である。

平成30年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年 12名

2. 実施時期 平成30年10月～12月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山遺跡について学習することを通して、ふるさとに愛着と誇りをもつ。
- ・石見銀山遺跡について調べたり、見学・体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

①事前学習

- ・パンフレット、本やDVDなどの資料を使って、石見銀山遺跡について調べる。
- ・石見銀山学習の課題を見つける。

②現地学習（11月6日）

「石見銀山世界遺産センターで調べよう」

- ・石見銀山世界遺産センターの見学をしたり、説明を受けたりして理解を深め、課題を解決する。

「選鉱や精錬について体験し、学ぼう」

- ・選鉱体験を行い、当時の鉱山技術や工夫を学ぶ。
- ・灰吹法を見学し、当時の銀の精錬方法について理解する。

「大久保間歩を見学しよう」

- ・大久保間歩を見学し、ガイドの方の説明を聞いて、江戸時代と明治期の採掘方法の違いや採掘方法の変化、当時の銀の採掘の大変さなどを学習する。

③事後学習

- ・調べたり見学したりして分かったことを新聞にまとめ、発表をする。

5. 実際の学習の様子

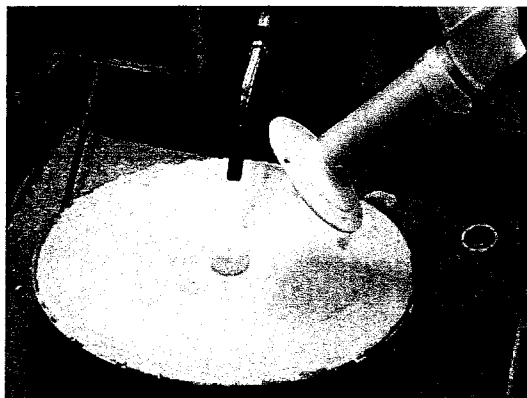
【世界遺産センター】



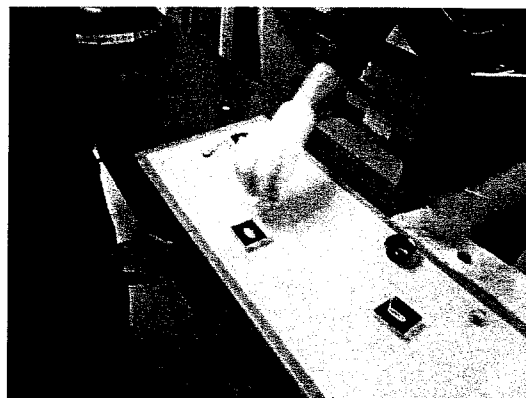
【ゆり盆体験】



【灰吹法実験】



【ミニ丁銀づくり】



【清水谷精錬所跡の見学】



【大久保間歩見学】



6. 児童の感想

- ・大久保間歩に入るのは初めてだったのでとてもドキドキしました。間歩の中は真っ暗で下には水がたまっていました。なぜ、水がたまるのだろうと不思議に思いましたが、山を深く掘ると地下水がわき出るからだと言われ、ガイドさんに教えてもらいました。昔はこんなに深くまで掘っていたのかとびっくりしました。中は真っ暗で懐電の明かりだけで作業をしたと聞き、さらに驚きました。
- ・石見銀山を見学してたくさんの知識を得ることができました。一番すごいと思ったのは間歩で銀を掘ることです。特に大久保間歩はとても大きく、高い場所でも銀を掘っていた跡が残っていてびっくりしました。昔の人は命をかけて銀を掘っていたのだと思いました。石見銀山学習を終えて、「石見銀山ってすごいな。」と改めて感じました。

7. 成果と課題

- ・石見銀山遺跡を訪れたことのない児童がほとんどだったので、DVDやパンフレットなどの資料を使った事前学習で関心をもたせ、現地で体験や見学を行うことで課題を解決したり、理解を深めたりすることができた。
- ・世界遺産の1つが大田市にあるということを認識し、ふるさと大田に誇りをもつ気持ちが高まった。
- ・自分達の住む町（静間町）と石見銀山のつながりを学習する計画を入れるともっと理解や地域への愛着の心情が深まったのではないかと感じる。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数

第5学年 4名・第6学年 8名（指導者 3名）

2. 実施時期

平成30年9月～平成31年2月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	・パンフレットやDVDなどの資料から、石見銀山遺跡や銀山街道について調べる。 ・現地学習での課題を見つける。
現地学習	・石見銀山世界遺産センターで説明を聞いたり、見学したりして、課題を解決する。 ・「選鉱、砂銀採り」の体験活動、灰吹法実演見学、丁銀作り体験、大久保間歩・釜屋間歩見学（間歩体験）を通して鉱脈の様子や掘り方、作業の工夫や苦勞について理解を深める。 ・大森の町並みを見学して、歴史や環境について理解を深める。
事後	① 銀山学習・特別授業（講師・石見銀山資料館仲野館長） ・仙の山に、銀ができた地学的な理由や、石見銀が世界へ広まった貿易など歴史的なことなどについて、説明を聞いて理解を深める。 ・石見銀山と鳥井町の関係などについて、自分の課題を解決できるように質問する。 ② 銀山学習発表会（地域講師・橋田良文さん） ・調べたり見学したりしてわかったことをまとめる発表の準備をする。 ・まとめたことを発表し、橋田さんに聞いていただく。 ・橋田さんの講評をもとに、今後の学習の見通しを持ったり、これまで学習したことを整理したりする。 ③ 授業公開日・銀山学習発表会 ・橋田さんの助言やさらに調べたことをもとに、より良い発表を目指して準備する。 ・保護者の方に、発表を聞いていただくことで、自己肯定感や愛着心など、銀山学習や地域へのプラスの心情を高める。

5. 実際の学習の様子

石見銀山世界遺産センター見学



大久保間歩見学



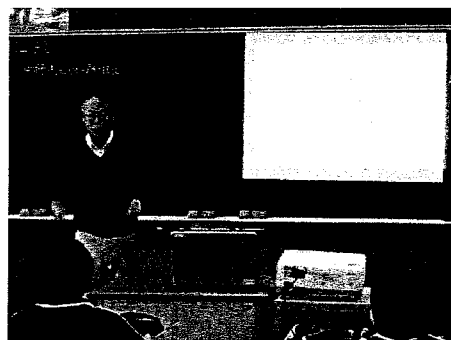
体験活動『ゆり盆体験』



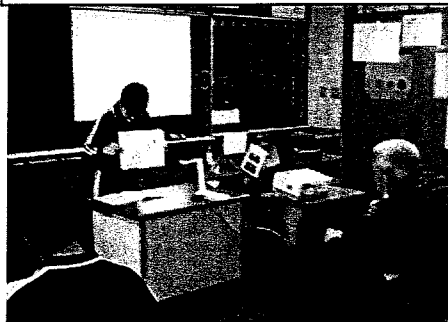
大森の町並み見学



仲野館長さんの特別授業



橋田さんに聞いていただく発表会



授業公開日での银山学習発表会



6. 学習の成果と課題

- ・石見銀山の歴史やその価値について理解を深めることができた。
- ・体験活動や遺跡見学を通して、さらに理解を深めることができた。
- ・現地の見学や体験活動をした後に、講師の方からお話を聞くことで、より理解が深まった。
- ・講師の方や保護者の方へ、学んだことを発表することで、体験や知識が整理され、一人一人の学びがより深まった。
- ・世界遺産である石見銀山遺跡がある郷土、大田市への誇りと愛着の心情を培うことができた。
- ・鳥井町と石見銀山の関わりを学ぶことで、より石見銀山を身近に感じ、石見銀の流通など、さらに理解を深めることができた。
- ・石見銀山学習を通して、総合的な学習の時間における探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開していくことができた。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立久手小学校

1. 実施学年・人数 第6学年 28名

2. 実施期間 9月から11月

3. 学習のねらい

○旧波根湖の見学等を通して、川崎平右衛門の業績を調べ、その願いについて考えるとともに、資料館や大久保間歩、五百羅漢像等を見学することで、石見銀山の価値を知り、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。

○銀の生産が盛んだった頃の様子を知り、昔のくらしや人々の様子について考えることができる。

○学んだことをまとめ校外及び地域へ石見銀山の価値を発信することを通して、学習を確かなものとする。

4. 学習内容

○副読本「石見銀山ことはじめ」やDVD、東部公民館資料を活用して、石見銀山が世界遺産に登録されるまでの背景や、戦国大名による銀山争奪戦、石見銀山と近隣の地域、世界とのつながり等について学習する。

○旧波根湖の干拓に力を入れた石見銀山代官、川崎平右衛門について知る。さらに、旧波根湖の見学を行い、当時の波根湖の広さを実感し、新田開発を行った川崎平右衛門の業績についてより深く考える。

○大森町で現地見学を行う。遺跡や間歩、五百羅漢像、資料館での見学を通して、当時の人々のくらしや苦勞、思いを想像する。

○石見銀山学習で学んだことを、新聞にまとめたり、校内学習発表会で発表したりする。これを学習のまとめとし、知識と理解を確かなものとする。

5. 実際の学習の様子

○10月1日 石見銀山学習

- ・世界の中の石見銀山
- ・波根湖と石見銀山



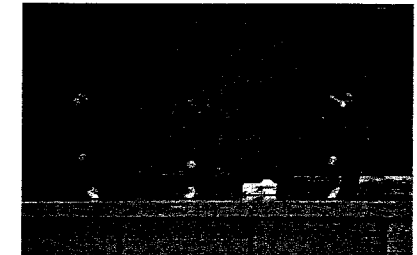
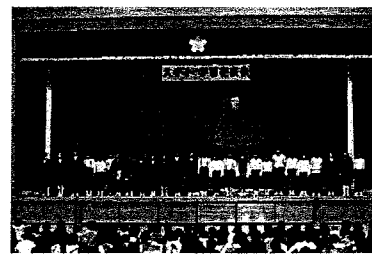
○10月18日 旧波根湖見学



○10月22日 石見銀山現地見学



○11月17日 校内学習発表会



6. 児童の感想

○今日、波根湖の見学がとても楽しかったです。バスで行っているのに、とても遠く感じました。それほど波根湖が大きかったことがわかりました。私が一番興味をもったのは、多胡氏でした。城が残っていたり、戦いの後が残っていたりして、社会の歴史に関連づけながら話を聞きました。

○今日、波根湖見学に行きました。ずっとこの日をまだかまだかと待っていました。まずはポンプで水を吸い上げる所に行きました。本当に大原川と水路の水位が違っていたのですごく驚きました。写真を見せてもらって、すごくきれいだなと思いました。自分的には、埋め立ててほしくなかったです。なぜかという、観光資源になったのではないかなと思うからです。ぼくたちの生まれたこの地に、こんな広大な湖があったのだと思いました。

7. 成果と課題

○本校の銀山学習を進めるうえで、旧波根湖と川崎平右衛門との関わりから石見銀山学習につなげ、児童が身近なところから世界遺産である石見銀山遺跡の価値を再認識できた。児童の感想から、よりふるさとへの思いが強くなったことが読みとれた。

○石見銀山学習で学んだことを校内学習発表会で発表したことにより、保護者、地域の方々へも石見銀山の価値を伝えることができた。また、新聞にまとめることによって、自分がより深く追求したい事柄について、文献やインターネットで調べることができた。そしてそれらは、学びを確かなものにするために有効であった。

△現地での学習をより充実させるために、事前にある程度各自で課題を設定しておく必要があると感じた。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 22名

○実施時期

平成30年 10月～12月

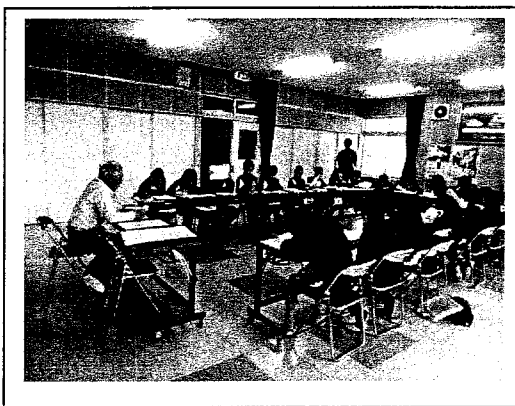
○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分で設定した課題について、体験活動や調べ学習を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過 程	主な学習活動
事前学習	○学習課題を見つけよう ・副読本やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、自分が調べたいテーマを考える。
現地学習	○世界遺産センターで調べよう ・ガイドの方の話を聞く。 ・センター内を見学し調べる。 ・調べても分からなかったことを質問する。 ・灰吹き法を見学する。 ・丁銀作りを体験する。 ○大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう ・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。 ・ガイドの方に質問する。 ○富山の要害山を見学しよう ・地域の方にガイドしていただき見学する。
事後学習	○石見銀山について分かったことをまとめよう ・調べたことを新聞にまとめる。 ・新聞コンクールに応募する。

○実際の学習の様子



【富山現地学習】



【世界遺産センター灰吹き法見学】



【世界遺産センター丁銀作り体験】



【間歩見学】

○学習の成果と課題

- ・石見銀山のことをほとんど知らなかったり、行ったことがなかったりした児童が、その歴史的価値を学ぶよい機会となり、児童にとって石見銀山が身近なものとなった。
- ・身近な地域にある石見銀山に関連した遺品や遺跡の価値を知ること、ふるさとに対する誇りや郷土愛が育まれた。
- ・石見銀山に関する各個人追究テーマを設定し学習を展開したことにより、主体的に学ぼうとする意欲や課題を解決するために追究する力の高まりがみられた。

3 班

第 三 中 学 校
大 森 小 学 校
高 山 小 学 校

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生 6名
2. 実施時期 9月～11月末
3. 学習のねらい
 - ・「石見銀山」及び地域の「街道」や街道沿いの事物について学ぶことによって、地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りを持った生徒を育てる。
 - ・「街道」や物流について学ぶことによって、国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」の価値を再認識し、広い視野を持った生徒を育てるとともに世界遺産の保全に対する意欲を高める。
 - ・学習をとおして、地域にある貴重な世界遺産の保全や地域の発展に対する意欲を高め、まとめたことを発表（情報発信）し、生徒が肯定的な評価を得ることで、生徒の自尊感情を高める。
4. 学習の内容
 - ①事前学習
 - ・小学校での既習事項の確認。
 - ・地域の「街道」について知る。（講師：石見銀山ガイドの会）
 - ②フィールドワーク：「やなしお道」を歩く。（石見銀山ガイドの会）
 - ③調べ学習
 - ・事前の学習や体験を元にテーマを決める。
 - ・図書資料やインターネットを利用して、調べる。
 - ④発表
 - ・文化祭での学習成果を紙面で発表する。
 - ・学校公開日にポスターセッション形式で発表する。
5. 実際の学習の様子



写真①：9月19日「事前学習」



写真②：9月26日「やなしお道」フィールドワーク



写真③：11月25日「ポスターセッション」

○生徒の学習テーマ

- ・多くの人々に使われたやなしお道 ・やなしお道の自然と保全に携わる人々 ・版築工法と土橋
- ・窯芸活動のつながりと街道の見どころ ・やなしお道周辺での出来事 ・やなしお道の概要

○生徒の感想 ～石見銀山学習をとおして～

- ・やなしお道という銀を運んだ道のことは、小学校で学習をしてきた中でも出てこなかったもので、どんな道だろうかと思っていました。でもガイドの方の話を聞いたり調べたりする中で、その道の役割や版築工法といった技術が使われていることが分かり、大切な道だということを知ることができました。ポスターセッションでの発表ではホワイトボードを使って紹介したりしながら伝えたいことを伝えられたので良かったです。

- ・僕はやなしお道について調べているときに、自分たちの学校でやっている窯芸活動と結びついたことにおどろきました。石見銀山の銀と水上の粘土層がどちらも同じ火山活動によるものだということがわかってよかったです。意外なところでつながりを持つことが面白かったです。
- ・銀の歴史を知るだけでなく、使われていた道を実際に歩く体験ができて楽しかったです。草刈りもしっかりしてあって、保全活動をして大事にしておられるということを実感しました。また、自然も豊かでたくさん種類のキノコが生えていることに感動しました。見つけたキノコを同定して、やなしお道キノコ図鑑を作ることができ、プレゼンテーションの中でも紹介できたので、興味を持ってくれる人がいたらいいなと思います。
- ・銀を運んだ道としてだけでなく、生活道として使われたことや文化的な交流にも一役買っていたこともわかり、いろいろな側面を見ることができました。

6. 成果と課題

○成果

- ・世界遺産とは何か、といった根本的な部分から事前学習をしたことで、自分たちが石見銀山について学ぶ意義とそれを発信していく必要性を理解することができた。
- ・小学校段階で世界遺産サミットでの発表などを経て、石見銀山遺跡について比較的深く学んだ集団であることを踏まえ、これまで取り上げられていない街道をテーマにしたことで、石見銀山についてまだ知らないことがあることに生徒自身が気づき、石見銀山遺跡への関心を高めることができた。
- ・フィールドワークでは、銀を積んだ牛馬が歩いた場所や、石見銀山争奪戦が行われたであろう場所などをガイドしてもらい、石見銀山とやなしお道の歴史について学んだ。また、草が刈ってあったり、倒木が道から除かれたりしてあることを実際に見たことで、貴重な遺産を保全するために尽力しておられる方々の存在や思いに気づくことができた。また、現在も生活道として使われている部分があったり、中国自然歩道に指定されていたりすることが分かり、過去の遺産という側面と、現在もなお生きている道という側面を知ることができ、自分たちがどのようにかわっていくのかを考える契機となった。
- ・総合的な学習の時間で本校が行っている窯芸活動に使っている粘土の成因と、石見銀山の銀の成因がいずれも同一の火山活動によるものであることを学んだ。校区内にある誇るべきもの同士の関連性を見出し、学習内容のつながりと広がり意識することができた。
- ・学校公開日に合わせ、調べたことを新聞形式にまとめたものをポスターセッション形式で発表した。何を伝えたいのかを明確にし保護者や同級生に伝える準備をする過程で、より深く自分の発表内容について理解するとともに、情報を発信する力を高めることができた。また、発表後には同級生や保護者の方から肯定的な評価を得ることで、生徒の自尊感情を高めることができた。

○課題

- ・カリキュラム上、石見銀山学習に取り組むことができる時数は限られているが、学習をとおして、石見銀山遺跡の歴史的・文化的価値を学んだり、石見銀山遺跡が抱える課題について知り、それらの課題解決を生徒の視点で考えるためには、時数の確保が必要である。
- ・本校では、1年生で石見銀山学習を行い、2年生・3年生では島根中央高校と連携して石見銀山保全活動を行っている。2年生・3年生においてもそれぞれの学年で取り組んでいる平和学習やキャリア学習があること、また、本校には地域との関係性から伝統的な取組である窯芸活動があることから、時数の確保が困難な状況である。

平成30年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3～6年生中心に学習しながら、全校11名が参加

2. 実施時期 5月～11月

3. 学習のねらい

- 石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育む。
- 6年目となる子どもガイド活動について、今までの学習を踏まえ見通しを持った活動にすることで、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てることができる。
- 発見・収集した情報を処理しまとめる活動をしたり、わかりやすく伝える活動をしたりすることを通して、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

4. 学習の実際の様子

大森小学校では、毎年石見銀山についての学習を全校の児童が行っており、資料を調べるだけでなく実際に出かけて行き、見学したり専門の方にお話を聞いたり、体験したりする活動を大切に考えている。以下、具体的な実践について紹介する。

(1) 子どもガイド学習（3～6年：7名）

- ・昨年の銀山地区に続いて、今年は町並み地区の『銀山カルタ』のスポットや、自分たちのおすすめスポットについて、実際に見たり調べたりした。
- ・石見銀山ガイドの会の方より、町並み地区についての説明を受けたり、ガイドをする時のポイントを質問したりすることで、町並地区の良さを再発見することができた。
- ・町並地区のよさについて調べたことをまとめ、クイズなども取り入れながら、高山小学校の3・4年生の友達に町並み地区について案内する子どもガイド活動を行った。ガイドの会の方々から学んだガイドのポイントを参考にしながら、自分たちの言葉で伝えていく活動とすることができた。



(2) 世界遺産センター見学（3～6年：7名）

- ・世界遺産センターを見学し、ジオラマや映像を見たり施設の方から説明を聞いたりして、銀の精錬がどのように行われていたか、当時の知恵や工夫を知ることができた。
- ・世界遺産センターでの見学や説明を聞くことを通して、戦国時代と銀山争奪戦や世界との貿易について歴史的に学ぶことができた。（高学年）
- ・世界遺産センターでの見学や説明を聞くことを通して、特に大久保長安のことについて詳しく知ることができた。（中学年）



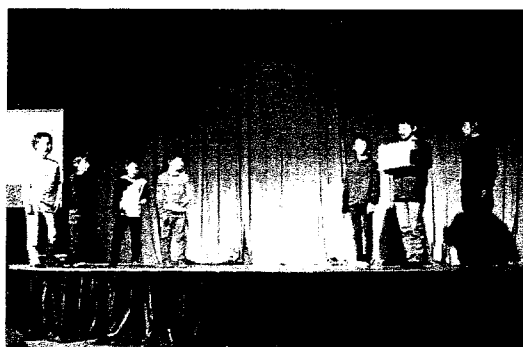
(3) 大久保間歩・釜屋間歩見学（3～6年：7名）

- ・大久保間歩・釜屋間歩を実際に見学し、当時の銀を掘り出す人の工夫や苦労を実感することができた。
- ・大久保長安について、説明を聞いたり、馬を乗り入れる逸話のある大久保間歩を見学したりすることで、さらに詳しく調べるきっかけづくりとすることができた。
- ・銀山ガイドの方の説明を聞いたり、五感を最大限に使いながら間歩を歩いたりすることで、当時の様子を想像したり、先人の苦労や工夫に気づくことができた。



(4) 地域の人、多くの人に情報発信（全校：11名）

- ・ガイド学習を行っている様子を大森小学校のHPに掲載した。
- ・「大森っ子発表会」（学習発表会）において、保護者だけでなく、地域の人へ、活動や学習で学んだことを劇やスライドで発表し、大森の良さや銀山の歴史などを伝えることができた。
- ・ガイド学習を行った様子をビデオに撮り、大森小学校のHPで、ガイドをしている様子をみることができるようにした。



*学習時間 銀山学習の時間：40時間

(現地学習14時間を含む)

5. 事業実施によりもたらされた効果

- ・1年生から6年生までが、石見銀山学習の活動を通して、郷土への誇りと愛着をはぐくむことができた。
- ・3～6年生は、石見銀山ガイドの会の方々の話を聞いたり、世界遺産センターや間歩の見学をしたりしながら、自分たちの目で確かめ肌で感じ取りながら学習を進めていくことができた。また、専門の方に詳しく話を聞いたり調べたりする学習を通して、大森の良さを再発見したり、意欲的・主体的に課題を解決したりする態度を育てることができた。
- ・自分が感じたことや学んだことをまとめ、人に伝えるという学習を通して、思考力・判断力・表現力を養うことができた。
- ・学習発表会で発信する事で、町民等到大森小学校の銀山学習への理解を深め、地域全体で世界遺産を守っていこうとする気運を高めることができた。

平成30年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年、人数

第5・6学年 14名

○実施時期

平成31年2月

○学習のねらい

- ・ 石見銀山についての郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、その歴史や価値について知ることと、ふるさとに愛情と誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- ・ 総合的な学習の時間として高山地区にある井戸碑をめぐることでふるさとのよさに気づき、一人ひとりが自分なりに学習したことをまとめ、発表することを通して表現力を高める。

○学習内容

＜事前学習＞

- ・ 井戸平左衛門や、石見銀山の歴史などについてパンフレットなどの資料を用いて調べる。
- ・ 地域講師の中田さんから井戸平左衛門に関することを聞く。

＜現地学習＞

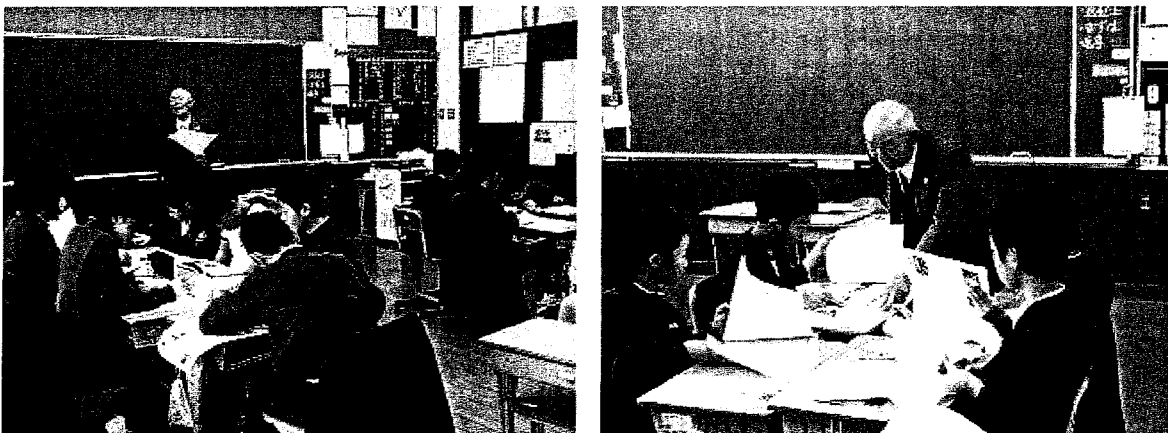
- ・ 水上町、祖式町、大代町の史跡（井戸碑など）を見学する。

＜事後学習＞

- ・ 調べたり見学したりして学んだことを新聞にまとめ、発表する。

○実際の学習の様子

＜事前学習＞



地域講師の中田さんによる、井戸平左衛門についての説明を聞いている様子。

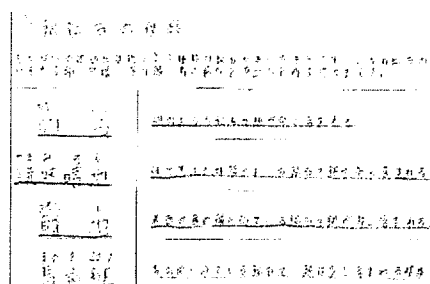
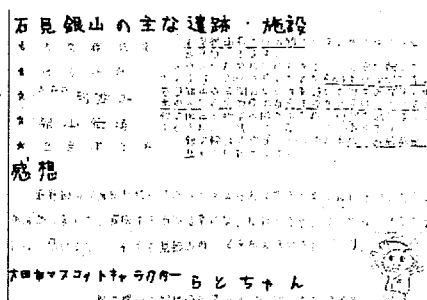
〈現地学習〉



祖式町、大代町、水上町に点在する井戸平左衛門の石碑を巡っている様子。

〈事後学習〉

児童が作成した
新聞の一部→



【児童感想】

- ・ 石碑の場所や、井戸平左衛門のことについてもよく分かりました。石碑にそれぞれ名前があったり、作るときにすごくお金がかかっていたりしたことも分かりました。
- ・ 水上町に石碑が4つあるのは、水上町には昔4つの村があったからだという意味だということも分かりました。
- ・ 私が知っているところもあったけど、今まで知らなかった山の方にも石碑があってびっくりしました。あと、いつも下校中通っていたところに昔の銀山街道もあったので、また見てみたいと思いました。
- ・ 銀山街道を少しだけ歩いてみたら、坂が急で、のぼるのが大変でした。でも、昔の人は、そこを行ったり来たりしていたので、すごいなと思いました。
- ・ それぞれの地区に行って石碑を見ることができて良かったです。それぞれの地区で井戸平左衛門の石碑をととても大切にしているということも分かりました。

○学習の成果と課題

- ・ 石見銀山のすばらしさや井戸平左衛門の功績を知ること、ふるさとを愛する心を育てることができた。
- ・ 見学を通して、実際に今も残っている井戸碑の場所や歴史を感じることができた。
- ・ 体験や学習したことをまとめ、発表することを通して、表現力を高めることができた。今回は新聞にまとめてポスターセッションのような形式で発表したけど、今後は劇にしたり、スライドにまとめたりするなど、様々な表現の工夫を子どもたちに経験させたい。

4 班

北 三 瓶 中 学 校
志 学 中 学 校
志 学 小 学 校
北 三 瓶 小 学 校
池 田 小 学 校

平成 30 年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要 大田市立北三瓶中学校

○実施学年・人数 1・2年生6名

○実施日 平成 30 年 4 月 19 日（木）

・本校は 2 年周期で内容を変え伝統的に銀山学習に取り組んできている。

①銀山街道を歩く（銀山公園から沖泊港までの 1.3～1.4 km を実際に自分の足で歩く体験活動）

②遺産センター、大久保間歩から石銀集落を徒歩で移動し途中の間部等も含めて見学する活動

＊今年度は②の年であったが地震の影響もあり、急きょ以下の内容に変更し実施した。

○ねらい ・世界遺産センターや大森の町並みを見学して、郷土の貴重な歴史遺産や文化について理解を深めるとともに、この地に生まれ育った一人として、地域に対しての誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

・資料館や遺産センターで実際に展示品を見て、学芸員の方などから説明を聞くことで、歴史に対する興味・関心を高める。

【道徳教育の観点から】

・地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。C-(16:郷土愛)

・日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。C-(17:愛国心)

・公德心および社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。C-(10:公德心)

・質素な道具しかなかった頃の人々の困難さや偉業を知る。D-(21:感動、畏敬の念)

○実際の学習のようす

1) 事前学習

参加生徒 6 名のうち、1 年生 1 名が 4 月に他県から転校してきた生徒（山村留学生）であり、また、2 年生 2 名は 1 年時に他県より入学してきた山村留学生である。本校は 3 年生修学旅行期間中に 1・2 年生が、2 年周期の異なる内容で銀山学習を実施しているが、上で述べたように今年度は①②の実施案の雨天時のものを組み合わせ、安全に学習ができるものに変更して銀山学習を実施した。ここ 5 年間晴天実施だったので、今年度の銀山学習の内容は初めての体験になる。

例年通り事前学習として社会科の授業で DVD などを用い、石見銀山の歴史や文化的景観などについて、その概略を学習した。また、今年度はさらに 1, 2 年生合同で図書館を活用し、ワークシートを利用した事前学習も実施した。

2) 当日の動き

場 所	移動手段	時 間	内容など
学校～銀山公園代官所前広場	バス	8 : 5 0 ～ 9 : 3 0	バス移動
石見銀山資料館		9 : 3 0 ～ 1 0 : 4 0	学芸員さんの説明を聞く・見学
資料館～河島家	徒歩	1 0 : 4 0 ～ 1 0 : 5 5	徒歩移動
河島家		1 0 : 5 5 ～ 1 1 : 1 5	見学
河島家～熊谷家住宅	徒歩	1 1 : 1 5 ～ 1 1 : 2 5	徒歩移動
熊谷家見学		1 1 : 2 5 ～ 1 2 : 2 0	熊谷家の方の説明を聞く・見学
熊谷家の庭または土間		1 2 : 2 0 ～ 1 2 : 4 0	昼食・休憩
銀山公園代官所前広場	徒歩	1 2 : 4 0 ～ 1 2 : 5 0	徒歩移動
代官所前～世界遺産センター	バス	1 2 : 5 0 ～ 1 3 : 0 0	バス移動
丁銀作り		1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0	キーホルダー作り体験
センター内施設見学		1 4 : 3 0 ～ 1 4 : 5 0	センターの方の説明を聞く・見学
世界遺産センター～学校	バス	1 4 : 5 0 ～ 1 5 : 3 0	バス移動

3) 事後学習

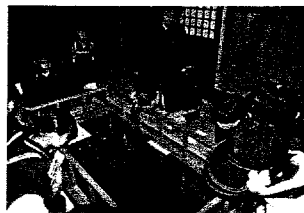
現地を訪れ、説明を聞いて分かったこと、感想などを紙面にまとめたり、社会科の歴史学習の中で補っていったりした。



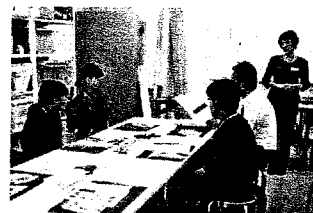
資料館で学芸員さんの話を聞く



河島家(武士の旧家)



熊谷家隠し倉庫(商人の旧家)



世界遺産センターにて 丁銀体験

～施設を訪れて分かったこと、施設の方の説明を聞いて分かったこと、感想～

- ・昔はガスも水道もなく大変だったのでしょうか、銀や酒などで生計を立てて暮らしていたことがよくわかった。前回来てわからなかったこともあったが、今回分かったことも増えたので多くの学びを得ることができた。
- ・石見銀山資料館に入り期間限定で展示されていた本物の銀の貨幣を見ることができたのはラッキーだった。また、その時代の文化や人々について知ることができた。
- ・去年ほど歩かなかったけど、学ぶことが多くて覚えるのが大変だった。資料館の展示物には、わくわくした。河島家の武士の甲冑には驚いた。熊谷家の地下の隠し倉庫がカッコよくて、昔の人は現代の私たちより頭がよいのではないかなあ～と思ってしまった。
- ・去年は銀山街道の工事、今年は地震のためと、もともとの伝統的な銀山学習とは少し違った体験になったが、丁銀作りはとても楽しかった。遺産センターでは灰吹き法を詳しく説明してもらった。また、展示物もじっくり見られるものばかりで、とても分かりやすくできていたので、説明がよくわかった。30kgの銀は重くてすごく価値があるなあ～と思った。
- ・熊谷家ではトイレや丸い風呂など自分がいる現代の東京のものとは、かなり違う古いものを見ることができた。資料館では、いろいろな小判を見ることができた。地震の影響で間歩に行けなかったのは残念だけど、遺産センターで自分だけの銀を作ることができて嬉しかった。
- ・熊谷家では懐かしいなあ～という気持ちと、すごく立派だなあ～という気持ちで見学できた。すごく広いと知ってはいましたが普通の家の5、6倍と聞き、ますます驚いた。部屋が大きくて、きれいで、一泊してみたいと思った。地下倉庫が畳をはがすと出てくるなんて、工夫されているなあ～と思った。私の部屋にも穴を掘って地下倉庫を作ってほしいぐらいだ。
- ・石見銀山の精錬法が日本の科学のもとになっていると聞いて、驚いた。ますます石見銀山で、すごいんだなあ～と感じさせられた1日だった。地元のことをもっともっと知りたい。

○学習の成果と課題

今年は実際のものを実際の場所で体験できなかったが、ジオラマやレプリカ、中には期間限定の本物の銀貨などの見学や、学芸員さんや施設の方の詳しい説明を聞くことで、銀山での暮らし、文化、発掘・精錬技術などを詳しく知ることができた。

本校では、山村留学制度により、毎年のように転入生がくるため、学習の積み上げが活かされにくい面もあるが、2年のローテーションで内容を変えながら取組を継続していることで、忘れていたことを想起したり、新たな知識獲得やふるさとへの愛着を深めることができていると思う。

平成30年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 1年生 5名

2. 実施時期 平成30年6月～平成30年11月

3. 学習のねらい

- ・ 現地学習で学んだことを通して、石見銀山遺跡への理解と郷土への愛着を深める。
- ・ 石見銀山と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いを理解してその意義に気づき、ふるさと志学も大切にしていこうとする態度を育てる。
- ・ 学んだことを、今後の個人追究活動に生かす。

4. 学習内容

- 事前学習 ねらいや見学地について知る。疑問点などを挙げて課題をみつける。
- 現地学習 大森周辺のフィールドワークを通して、石見銀山遺跡への理解を深めるとともに、課題について考える。
- 事後学習 学んだことを整理したり、学んだ視点でふるさと志学について気づいたことを挙げたりする。
- 個人追究活動 現地学習を受け、さらに調べたいことを決めて調べる。
- 文化祭展示 現地学習で分かったことや学んだことを新聞形式にまとめて展示する。
現地学習および個人追究活動で分かったことや学んだことを、小学生、保護者、地域に向けて展示する。

5. 実際の学習の様子

○現地学習

(五百羅漢)



(西性寺)



(石見銀山資料館)



(城上神社)



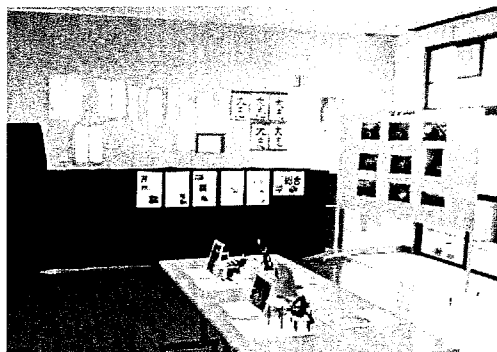
【感想、気づいたこと・分かったこと、疑問に思ったこと・さらに詳しく知りたいこと】

- ・ 自動販売機を覆っている木は、専門の人が作っていると思っていたけれど、その家の人が作っていると知りました。大森の方々が大切に地域の環境を守っていることがわかりました。
- ・ 石見銀山資料館でのお話で驚いたことは、大森は地震の被害があまりなかったという事です。志学と違い、地面が岩盤質だから、あまり揺れないと教えていただき、すごく驚きました。
- ・ 事前に、なぜ天領になったのかという質問を送ったところ、たくさんの答えをプリントにしてください、ありがとうございました。天領が全国に何か所あるか、初めてわかりました。

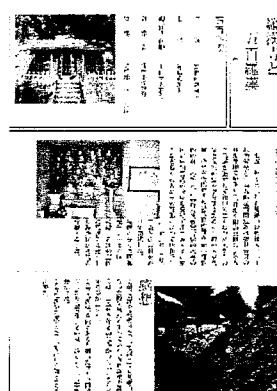
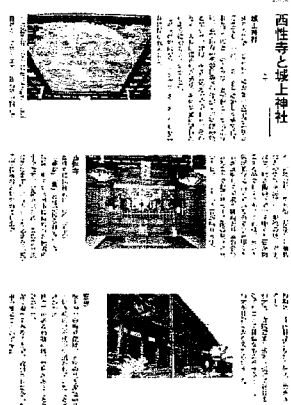
- ・石見銀山は世界遺産登録解除になったりするのかと質問をして、解除になる可能性もあると言われて驚きました。解除にならないように自分にできることがあれば協力していきたいです。
- ・何回も石見銀山に行ったことがあり、知らないことはないと思っていたら、たくさん知らないことがありました。もっと石見銀山に行って、知らないことを知りたいと思いました。
- ・大森の街並みがミシュランの三つ星をとっていて、とてもすごいことが分かりました。

○「文化祭」展示

(新聞を作成し、「文化祭」で展示)



Wordで作成し、A3用紙に印刷したものを全員が展示した。



6. 学習の成果と課題

本校では、1年生が総合的な学習の時間で、大森の町並みの見学を通して、世界遺産の環境保全の意義や、それを支える地域の様子について学んだ。伝統的な町並みを守る大森の町づくりに触れることで、世界遺産についての知識を深めるばかりだけでなく、大森の町づくりと自分たちの地域とで共通するところや、参考にしてみたい点、人々のつながりや歴史的な関連性などについて知識を深めることができた。

また、総合的な学習の時間では、他にも志学地域をテーマに実施した地域の探究を行っている。大森と比較することにより、自分たちの地域を見直したり、意見を提案したりしている。今回の学習では、4月に起きた震災を比較したところ、大森が岩盤質で他地域より被害が少なかったことが分かった。世界遺産についても解除があることが分かり、持続可能な社会を築く観点から、志学と比較して考える学習となった。

生徒が銀山学習で学んだことを生かして、石見銀山に対する理解を深めるとともに、ふるさと志学と銀山のつながりや、志学のまちづくりについて考える機会になるようにしたい。

大田市4班連合小学校

(志学・北三瓶・池田)

平成30年度大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年・人数 4班連合5・6年生23名
- 2 実施時期 平成30年7月5日(木)
- 3 学習のねらい
 - (1) 温泉津町の街並みや沖泊、福光石採石場などの見学を通して、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値や歴史について学ぶ。
 - (2) 3校の児童が共に活動や学習することを通し、集団行動や協力の大切さを学ぶとともに親睦を深める。
- 4 学習内容
 - (1) 松山の道標、沖泊見学
 - (2) やきものの里、街並み見学
 - (3) 福光石採石場見学
- 5 実際の見学の様子
 - (1) 4班連合修学旅行「世界遺産の原爆ドーム・厳島神社を訪ねよう」
 - ・ 6年生は、修学旅行で訪ねた世界遺産(原爆ドーム・厳島神社)の価値についてまとめ、修学旅行報告会で発表した。
 - ・ 5年生は、各校で行った修学旅行報告会での6年生の発表を聞き、広島にある2つの世界遺産について知るとともに、ふるさと大田市にある世界遺産・石見銀山についての関心を高めた。
 - ・ 5・6年生ともにパンフレットやDVDから石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知り、各校や各自の課題を見つけた。
 - (2) 松山の道標、沖泊を見学しよう
 - ・ 松山の道標付近や沖泊を歩きながら、銀が運ばれた道や港の様子について、3班に分かれ、石見銀山ガイドの会(3名)の方から説明を受けた。



【沖泊】

(3) やきものの里、街並みを見学しよう

- ・街並みを歩きながら3班に分かれ、石見銀山ガイドの会の方3名から説明を受け、温泉津の町がどのように形成されていったか、知ることができた。



【温泉津の街並み】

(4) 福光石採石場を見学しよう

- ・2班に分かれて見学しながら、ものづくり工房の方2名から、採石の仕方や福光石の特長について説明を受けた。



【福光石採石場】

(5) 世界遺産「石見銀山」の素晴らしさをまとめよう

- ・各校から、一人一人が作成した『石見銀山新聞』を持ち寄り、5・6年合同学習で3つのグループに分かれて発表した。現地学習の班分けを生かし、全ての班員がいるグループ編成にして、学習の成果を交流した。



【合同学習】

6 学習の成果と課題

- (1) フィールドワーク等により、銀の積み出し港としての温泉津地域のすばらしさを体感することができた。また、福光石について知り、温泉津と三瓶地域との関わりを考えることができた。
- (2) 銀山学習を各校の教科や総合的な学習の時間につなげることができた。
- (3) 三瓶周辺3校の児童の親睦と連帯感を深めることができた。
- (4) 石見銀山と自分たちが住む地域（志学、北三瓶、池田）とのつながりを、今後探ることができるとよいと思われる。
- (5) 昨年度大森地区を見学した6年生は、今年度温泉津地区を見学したことで、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習することができた。
5年生は、来年度大森地区を見学する予定であり、複式校のよさを実感できるものと期待している。



【最優秀作品】

5 班

大 田 西 中 学 校
仁 摩 小 学 校
温 泉 津 小 学 校

平成30年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生41名

2. 実施時期 7月～1月

3. 学習のねらい

- ・「石見銀山」の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・地域の人々との交流を深めながら、世界遺産に登録された「石見銀山」について調べるとともに、これからの「石見銀山」のあり方について考えようとする態度を育てる。
- ・なぜ「石見銀山」が世界遺産になったのか、その魅力を再発見し、発信する態度を育てる。

4. 学習の内容および学習の様子

- ①ガイダンス（小学校での学習の振り返りと小学校での学習の情報共有、DVD『世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観』の視聴）
- ②テーマ決定（中学生として何を調べたいか）
- ③調べ学習（学校図書館を利用し情報カードにまとめる）
- ④フィールドワーク（山吹城、沖泊道、大久保間歩、石見銀山世界遺産センター、石見銀山資料館、大森町並み交流センター、ゆうゆう館、灰吹法体験、有馬光栄堂、ペロタクシー）
- ⑤新聞作成（個人で学習のまとめ）
- ⑥文化祭での発表（石見銀山の秘密と称して、学習した内容をクイズ形式で紹介）
- ⑦講演会（石見銀山生活文化研究所の松場登美さんと伊藤俊一さん）



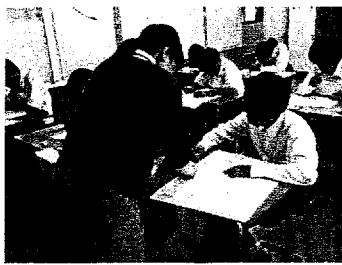
①：情報共有のようす



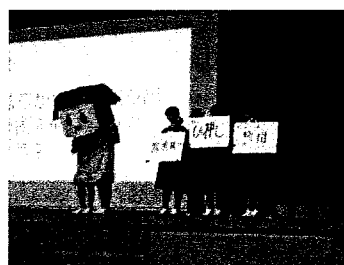
③：調べ学習



④：山吹城での話



⑥：新聞作成



⑦：文化祭での発表

【生徒の感想（現地学習より）】



石見銀山は、私たちの身近にあり、気軽に行ける所でありながら、実際、現地に行って知ろうとすることで、まったく知らない石見銀山を知ることができます。話を聞いて学ぶより実際に体験するととても楽しく学ぶことができます。

改めて銀山の大切さ、魅力を知りました。いろいろな人に支えられてきたからこそ石見銀山が世界遺産に登録されたのだと思います。石見銀山は私たち大田市の宝であり、誇りです。これからもそうあり続けるよう、守っていきたいです。



【生徒の感想（松場・伊藤さんの講演会より）】



私たちは普段世界遺産の町に住んでいて、それが当たり前のようになっているけど、本当は当たりのことではありません。だから世界遺産の一つである石見銀山をこれからも守っていくために、どうすればもっといろいろな人に石見銀山を知ってもらえるか、もっとより良い町になるかを考えながら、未来のことについて島根県の人たちみんなと協力していききたいなと思いました。

5. 成果と課題

- ・自分たちが詳しく調べたいと考えた内容を仲間と協力して調査することで、意欲的に取り組めた生徒が多かった。
- ・実際に現地を訪問し見学や体験活動等をするを通して、自らの課題を追究しようとする意欲が高まり、熱心にまとめ活動も行うことができた。
- ・個人で新聞にまとめることで内容の整理ができ、文化祭などで保護者や地域の方に学習内容を発信することができた。
- ・他県出身者からみた大田市の魅力を聞いて、外からの視点でふるさとの良さに気づくことができ、これからの町づくりについて考える機会を得られた。
- ・生徒の希望する調べ学習にしようとする、文献資料や訪問箇所が多岐にわたるためその準備に時間がかかることや、現地学習での生徒の動きを把握するための調整が大変である。

平成30年度 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第4学年・第5学年・第6学年 85名

2. 実施時期 平成30年10月～平成31年2月

3. 学習のねらい

- ・ 仁摩を知り、仁摩に愛着を感じ、誇りに思う子どもを育てる。
- ・ 石見銀山遺跡や仁摩と銀山の関わりについての学習をとおして、地域の文化遺産について理解を深め、学習したことや感じたことを発信しようとする態度を育てる。

4. 学習内容

学年	4 年	5 年	6 年
単元名	井戸平左衛門について調べよう	石見銀山と私たちの仁摩	輝け！石見銀山
ねらい	石碑や代官所跡の見学を通して、井戸平左衛門の功績を知ると共に、地域の人たちの井戸平左衛門への感謝の気持ちを感じとり、ふるさと仁摩のよさを発見し、愛着をもって生活しようとする。 5年生から引き継いださつまいもを実際に育て、その苦労を実感する。	仁摩町と銀山の関わりについて興味をもち、大久保間歩の見学と鞆ヶ浦街道を実際に歩くことを通して郷土の貴重な歴史遺産や文化についての理解を深め、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守っていこうとする心情を育む。	5年時に行った大久保間歩見学や鞆ヶ浦街道を歩く現地学習をもとに、世界遺産センターでの学習を通して石見銀山の歴史や世界とのつながりについて調べ、世界遺産である石見銀山について自分達にできることを考える。
内容	・ 井戸平左衛門について調べる。 ・ 石碑の見学をする。 (仁万・馬路・宅野大国・大森代官所跡) ・ 新聞にまとめる。 ・ さつまいもを育て、昔ながらの方法で冬越しをさせる。	・ 石見銀山について調べてみたいことを見つけ、関心を持つ。 ・ 大久保間歩を見学する。 ・ 銀が運ばれた街道を歩く 大森～鞆が浦港 ・ 仁摩と銀山との関わりについて考える。 ・ リーフレットを作成し、4年生に伝える。	・ 5年時に見学した大久保間歩や鞆ヶ浦街道を歩く学習を思い出し、石見銀山について、調べたいことを考える。 ・ 調べ学習をする。 ・ 考える。 ・ 世界遺産センターの見学 ・ 石見銀山の歴史や世界とのつながりについて考え、まとめる。

5. 実際の学習の様子

【第4～6学年の実践】

■世界遺産センターの見学・灰吹法の体験（6年） ■井戸公石碑見学・さつまいもの引継（4年）



世界遺産センターを見学し、石見銀山の歴史や世界との関わりについて学んだ。

銀鉱石から銀になるまでの過程を、灰吹法の実演を見ることで学んだ。

地域にある井戸公の石碑や井戸神社を見学し、功績を学んだ。

5年生から引き継いださつまいもを栽培し・収穫後冬越しさせる。

■鞆ヶ浦街道を歩く（大久保間歩～石銀地区～永久精錬所跡～鞆ヶ浦港）（5年）



大久保間歩を見学し、どのようにして銀が採掘されたかを知るとともに、その規模の大きさを感じた。

大森から鞆ヶ浦港までの街道をガイドをしていただきながら2日に分けて歩き、当時の人々の苦労や思いを実感した。

6. 学習の成果と課題

- ・現地学習や調べ学習を通して、石見銀山と仁摩との関わりを知ったり、地域に昔から大切にされている物やそれを支えてきた人々の思いに気づいたりすることができ、自分達の住んでいる仁摩に、さらに誇りと愛着をもつことができた。
- ・6年生は、世界遺産センターの見学や灰吹法の実演を見ることにより、石見銀山の歴史や世界との関わりについて学ぶことができた。また、調べたことを、これから学習する4年生に伝える場を設けた。
- ・5年生は大久保間歩の見学とともに鞆ヶ浦街道を歩くことにより、銀山と仁摩との関わりについて学ぶことができた。
- ・4年生は、校区内の井戸平左衛門の石碑見学をもとに銀山とのつながりを考えることができた。また、5年生から引き継いださつまいもを栽培・保存し、来年度へ引き継ぐ学習を進めることができた。
- ・今年度、現地学習の時期が遅くなってしまった。校内行事と照らし合わせ、早めに実施できるよう計画していきたい。

平成30年度石見銀山基金事業 世界遺産学習の概要

1 実施学年、人数 第6学年 11名、第5学年 13名、第4学年 13名

2 実施時期 平成30年6月～平成31年3月

3 学習のねらい

- ・温泉津町や大森町での現地学習を通して、石見銀山と温泉津町との関わりを学ぶ。
- ・温泉津町での見学や取材活動を通して、温泉津町についての理解を深め、ふるさとに対する愛着を育てる。

4 学習内容

	4 年	5 年	6 年
拠点	大森と井戸平左衛門	福光石について調べよう	石見銀山について調べよう
学習内容	○<u>現地学習</u> ・井戸平左衛門の行いやその時代の飢饉について知る。 ・大森代官所や温泉津町内の石碑を調べる。 ○<u>課題設定・追究</u> ・食糧問題にはどんなものがあるのかを知る。 ・課題設定をする。 ○<u>まとめ</u> ・食糧問題の解決のための取組を考えたり、井戸平左衛門についてまとめたリする。 ・発表・振り返りをする。	○<u>課題設定</u> ・石見銀山資料館館長の話聞き、福光石について知る。 ○<u>現地学習</u> ・石切り場を見学し、どのように採石されているか学ぶ。 ・高野寺を見学し、福光石の用途を知る。 ○<u>体験学習</u> ・福光石の加工を体験し、当時の人の気持ちを理解する。 ○<u>課題設定・追究</u> ・見学をもとに課題を設定し、調べる。 ・ふるさとと自分とのかかわり方について考える。 ○<u>まとめ</u> ・学習のまとめをし、取組の振り返りを行う。	○<u>現地学習</u> ・パンフレットや副読本から石見銀山について理解する。 ・それらから課題設定する。 ○<u>課題追究・現地学習</u> 大森町の町並み見学 石見銀山資料館、城上神社、青山家、観世音寺、旧河島家、五百羅漢、豊栄神社、龍源寺間歩、佐毘売山神社、大久保石見守墓所 ・温泉津町と石見銀山との関わりについて知る。 ・町並みを見学して、大森の町の町づくりの工夫を知る。 ・間歩の見学をして、当時の銀生産の様子を知る。 温泉津町の町並み周辺見学 龍之御前神社、恵光寺、金剛院、愛宕山、西念寺、往還道 ・温泉津の町が日本の各地とつながっていた痕跡を知る。 ・温泉津が世界遺産になっている理由や、町並みの様子、往還道の様子を見て学ぶ。 ・大森町と町の様子を比較し、町づくりの工夫を考える。 ○<u>まとめ</u> ・学習したことをもとに、町の良さを生かした取り組みについて考える。 ・学習したことをまとめ、プレゼンテーションをする。

5 実際の学習の様子



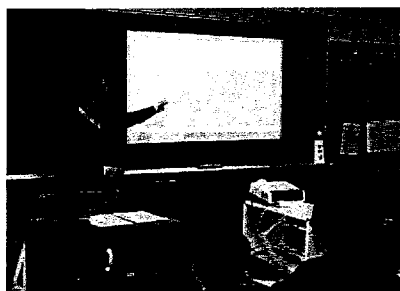
現地学習 石見銀山学習見学（4年）



現地学習 石見銀山学習見学（4年）



現地学習 高野寺見学（5年）



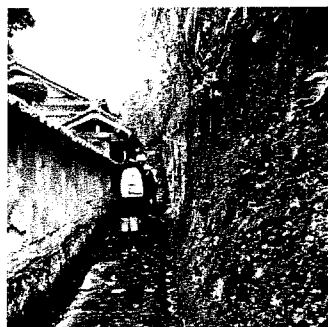
事前学習 福光石についての学習（5年）



現地学習 石切り場見学（5年）



体験学習 福光石加工（5年）



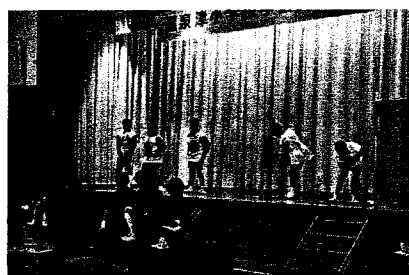
現地学習 温泉津町見学（6年）



現地学習 大森町見学（6年）



現地学習 大森町見学（6年）



事後学習 報告発表会（6年）

6 学習の成果と課題

- 石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味を理解したり、地域を守っていきたくと考えたりする児童が増えた。
- 温泉津小学校学習発表会で、学習したことを多くの温泉津町民の方に見ていただくことができ、児童にとってよい機会となった。
- 銀山基金を活用することで、現地学習等の機会を多くすることができた。学習がダイナミックになり、児童にとって印象に残る学習となった。